

【まとめ】

今回の金生寺遺跡の調査では、大規模な水利施設と堤が見つかりました。これらの遺構は、周辺の田畑を灌漑する目的で作られたと考えられます。このような遺構がそのまま残されている例は少なく、当時の土木技術を知る上で貴重な成果となりました。

曾我部町では、これまで弥生時代の遺跡は見つかりませんが、古墳時代になると犬飼遺跡や春日部遺跡などでムラが出現します。4世紀に曾我部町一帯の開発が大きく進み、多くの人びとが住むようになったと考えられます。今回の調査では遠方から運ばれてきた土器が見つかることから、金生寺遺跡周辺には、広く交流関係を持ち、最新の土木技術に触れることができるような集団が住んでいたものと思われる。

最後になりましたが、今回の発掘調査にご参加いただいた皆様、地元の皆様、ご指導・ご協力いただいた皆様に深く感謝申し上げます。

コラム②  
古墳時代のリサイクル

堤S X02には多くの木材が使用されており、中には建物の部材と考えられるものも含まれていました。金生寺遺跡では、扉や梯子などが出土しており、近くに建物があったと考えられます。堤はその建物の部材をリサイクルして造られたのでしょうか。古墳時代の人びとは、限られた資源を最大限有効活用していたのです。



写真3 出土した扉材

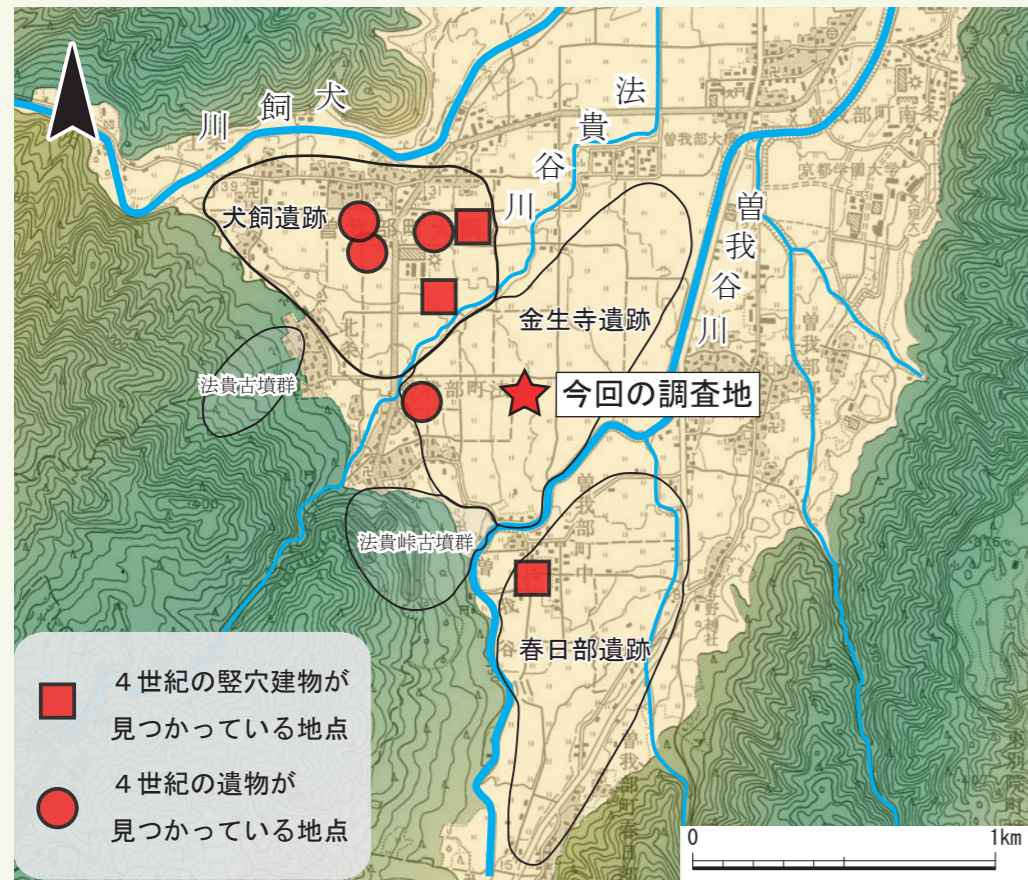
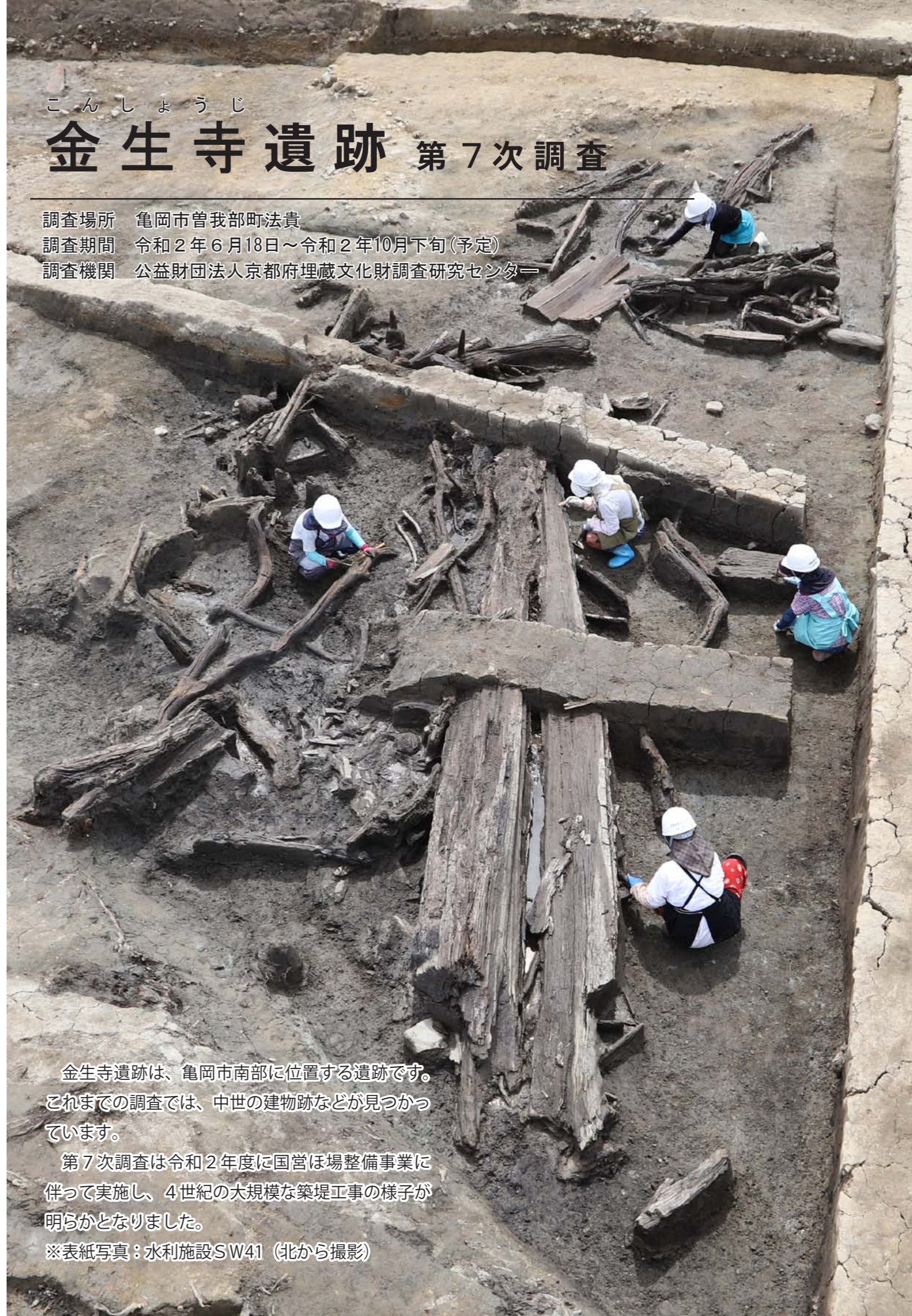


図3 曾我部町で見つかった古墳時代の主な遺跡

西暦	時代	できごと
250	縄文	
	弥生	※弥生時代以前の遺跡は曾我部町内で未確認
400	前期	金生寺遺跡で大規模な水利施設ができる。 犬飼遺跡・春日部遺跡で集落ができる。
	古墳時代 中期	金生寺遺跡の水利施設が廃絶する。
500	後期	法貴古墳群、法貴峠古墳群で古墳が70基以上造られる。
	飛鳥	犬飼遺跡で木材集積所ができる。

こんしょうじ  
金生寺遺跡 第7次調査

調査場所 亀岡市曾我部町法貴  
調査期間 令和2年6月18日～令和2年10月下旬(予定)  
調査機関 公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター



金生寺遺跡は、亀岡市南部に位置する遺跡です。これまでの調査では、中世の建物跡などがみつかりました。

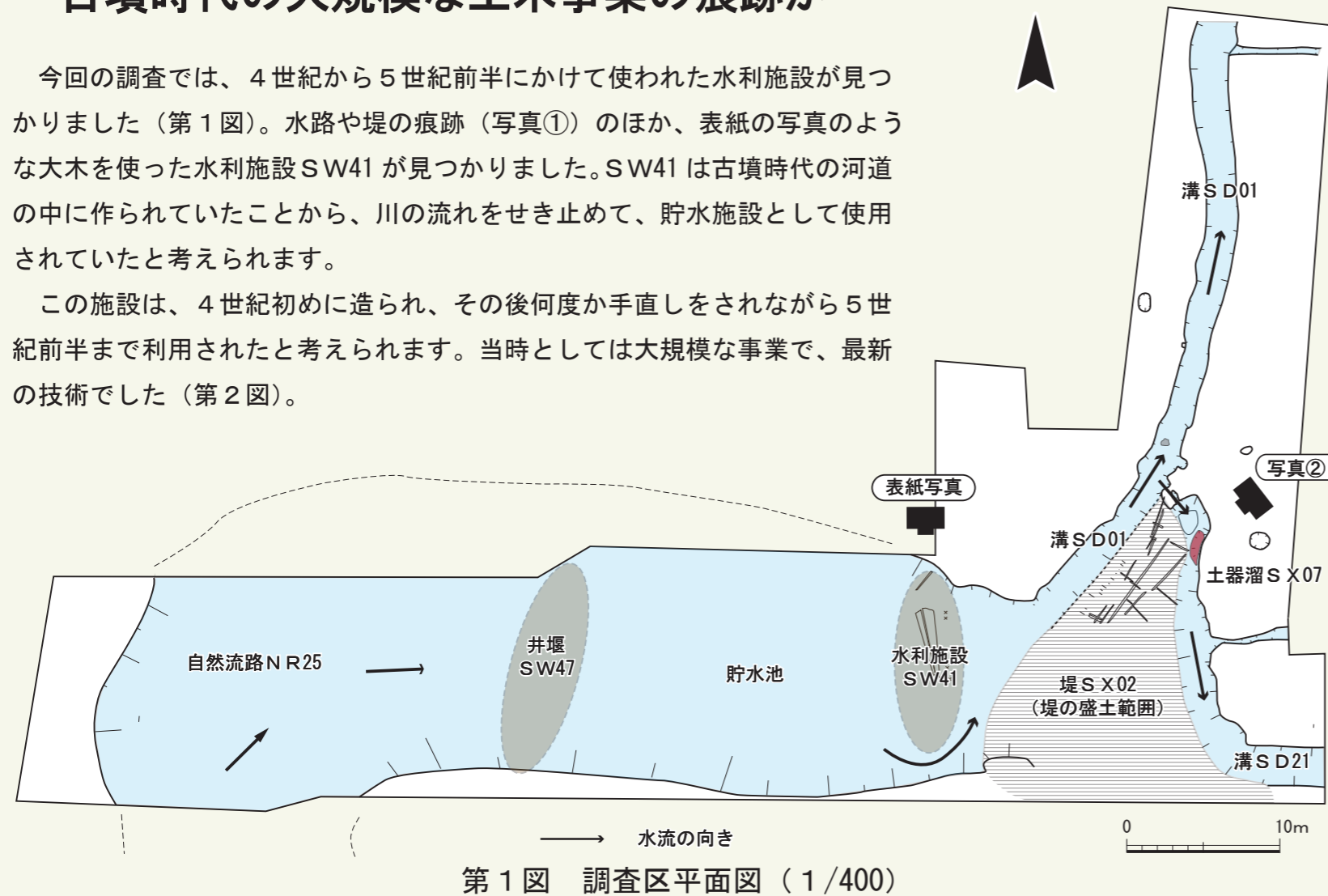
第7次調査は令和2年度に国営ほ場整備事業に伴って実施し、4世紀の大規模な築堤工事の様子が明らかとなりました。

※表紙写真：水利施設SW41（北から撮影）

# 古墳時代の大規模な土木事業の痕跡か

今回の調査では、4世紀から5世紀前半にかけて使われた水利施設が見つかりました（第1図）。水路や堤の痕跡（写真①）のほか、表紙の写真のような大木を使った水利施設SW41が見つかりました。SW41は古墳時代の河道の中に作られていたことから、川の流れをせき止めて、貯水施設として使用されていたと考えられます。

この施設は、4世紀初めに造られ、その後何度か手直しをされながら5世紀前半まで利用されたと考えられます。当時としては大規模な事業で、最新の技術でした（第2図）。



写真② 土器溜SX07から出土した土器（4世紀後半）

溝SD21は、溝SD01の支流の水路です。写真の土器はSD01とSD21の分水点付近でまとまって見つかりました。そのままの状態に残されていたことから、水路が使われなくなった際に、土器を使ったマツリが行われたのかもしれない。



写真① 堤SX02の骨組み（北東から撮影）

## 4世紀の最新技術、木組みの堤

溝SD01と溝SD21、自然流路NR25の合流点では、堤の痕跡（SX02）が見つかりました。堤SX02は、写真①のように木を縦・横交互に組み合わせて骨組みを造り、その隙間や上に砂利と粘土で盛土を施すことで、水流に耐えるように工夫が凝らされた構造となっています。

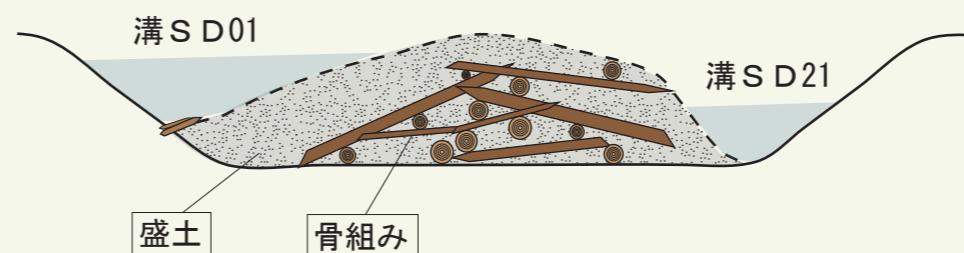


図2 堤SX02の復元模式図

### コラム1

#### 山海を越えてきた土器

土器の形や焼き上がりの様子をよく観察すると、地元の土器とは違う「他所からやってきた土器」が見つかることがあります。今回の調査では、遠くは徳島県や東海地方、山陰地方などで作られた土器が見つかりました。

金生寺遺跡には各地から人びとがやってきていたことを示しています。

